

## 科学研究費助成事業（科学研究費補助金）研究成果報告書

平成 25 年 6 月 12 日現在

機関番号：32304  
 研究種目：研究活動スタート支援  
 研究期間：2011 年 ～ 2012 年  
 課題番号：23830066  
 研究課題名（和文） 地域の伝承者・実演家・教師の協働による謡の学習プログラムの開発  
 研究課題名（英文） Development of the learning program of *utai* by collaboration of the transformer, performer, and teacher  
 研究代表者  
 田村 にしき（ TAMURA NISHIKI ）  
 東京福祉大学・教育学部・助教  
 研究者番号：50613494

研究成果の概要（和文）：宮城県北部で謡を伝承している地域の伝承者や子どもの謡の学びのプロセスによって見出された教育的意義を生かし、地域の伝承者・実演家・教師の協働による地域の学び手の実態に特化した謡の学習プログラムを作り、2013 年 2 月に、宮城県大崎市立大貫小学校にて、小学校 4 年生を対象に検証授業を行った。

能楽師の安田氏の指導の下に、授業に新聞やぶりやボディーワークの活動を取り入れたり、児童がつくった詩を、謡の節にのせてうたう活動を取り入れたりすることで、児童のうたう声に変容していく過程を見出すことができた。

研究成果の概要（英文）：Utilizing the education benefit discovered through the process of learning *utai* by children and the transformers located in the northern region of Miyagi Prefecture, we created a program for learning *utai* that is specific to the learning methods of the region and that is made possible through the collaborative efforts of local transformers, performers, and teachers.

In February 2013, we conducted validation classes for 4th grade elementary school students at the *Onuki* Elementary School located in *Osaki* City, Miyagi Prefecture.

Under the instruction of Noh player Yasuda, the class involved a newspaper tearing game, body work activities and singing based on combining lyrics written by children in order to examine the process of how the voice of children changes with song.

交付決定額

(金額単位：円)

	直接経費	間接経費	合計
2011 年度	600,000 円	180,000 円	780,000 円
2012 年度	600,000 円	180,000 円	780,000 円
年度			
年度			
年度			
総計	1,200,000 円	360,000 円	1,560,000 円

研究分野：教育学

科研費の分科・細目：教科教育学

キーワード：音楽科教育、謡、学習過程、地域研究

## 1. 研究開始当初の背景

## (1) 能楽研究の面から

これまでの能楽研究では、第 1 に、国文学・歴史学の分野で能の伝書やテキスト研究

が中心であった。第 2 に音楽学の分野では、中央五流の謡や囃子の唱歌に関する研究が中心であった。

近年、これらの研究に加えて、江戸期にお

いて地方諸藩の藩主たちがどのように「能」にかかわったのかということや、庶民がどのように「能」を教授していたのかという地方能楽史の研究や、「能」と他の芸能や音楽の関連性に関する研究が注目されるようになってきた。しかし、地域の伝承者や児童が「能」や謡を学び続けることによって、どのような内面的な変化が起こり、人、音楽、社会とのかかわりがどのようにひろがっていくかという教育的意義の側面から解明した研究はない。そこで、長期にわたる宮城県北部の保存会のフィールドワークや能楽師が子どもに稽古する現場の参与観察を行うことによって、学び手の変化や教育的効果を検証してきた。

## (2) 音楽教育学の面から

教育現場では、学習指導要領で「伝統的な歌唱指導の充実」や、「伝統音楽の学習を通じた音楽文化の理解」が指摘されているが、先行研究では和楽器の指導法に関するものが多く、文化的背景を踏まえた伝統的な歌唱の教授方法や教材の開発は急務の課題となっている。このように急務の課題となっている伝統的な歌唱の指導法の開発であるが、学びのプロセスにおける教育的効果の検証に基づき、現在の学び手の実態に応じた教材選定や教授方法の検討に関する課題が残されており、また教育現場や後継者養成の方法への応用に関しても検討することが多い。

## 2. 研究の目的

1で述べた学術的背景及びこれまでの研究成果を基に、本研究は、地域の伝承者や子どもの学びのプロセスによって見出された教育的意義を生かした謡の教材研究及び教授方法を検証し、地域の伝承者・実演家・教師の協働による謡の学習プログラムを作り、検証授業を行うことを目的とする。

## 3. 研究の方法

2で述べた目的を達成するために、本研究では、①地域の伝承者及び能楽師への聞き取り調査及び稽古の参与観察から浮かび上がってくる、謡の学びのプロセスにみる教育的意義の解明、②①を踏まえた地域に特化した学習プログラムの開発、③地域の小学校における伝承者・実演家・教師の協働による検証授業、④受講者へのアンケート調査や授業実践者との振り返りによる、検証授業の教育的効果の検討、の手順と方法で研究を行った。

## 4. 研究成果

### (1) 学習プログラムの開発

教育活動の経験が豊富な能楽師の安田登氏と、宮城県大崎市大貫地区の謡の保存会である新田ノ目春藤流保存会「鉢の木会」の会

員と協働し、地域に根付く謡の教材選定、学び手の教育効果を意識した教授方法の工夫を検討し、宮城県大崎市大貫地区に伝わる謡に特化した学習プログラムの開発を行った。題材名は、「郷土の音楽に親しもう」とした。

大貫地区を選んだ理由は、当地域で、昭和30年頃まで、結婚式、上棟式、元旦、大晦日等、生活の様々な場面で祝言の小謡がうたわれており、生活と謡が密接にかかわっていた地域だからである。その中でも、「お振舞」と呼ばれる、謡と民謡でおりなす結婚式の独自の流れがあった。現在では、生活習慣が変化し、生活の大切な節目で謡をうたう文化が失われつつあるが、このような貴重な謡の文化を、世代を超えて継承していくことができるよう、本題材を設定した。

題材の目標は、①謡の学習を通して、昔の結婚式の風習や生活と謡のかかわりに関心をもつ、②歌詞の意味を感じ取り、謡の声にふさわしい発声でうたうことができる、③想像したことや感じ取ったことを言葉で表し、謡の特徴やよさに気づくことができる、という3点を設定した。

教材は当地域で昭和30年頃まで行われた結婚式において、三々九度の時にうたわれた、「高砂」の待謡と、民謡「さんさしぐれ」である。

学習プログラムは2時間扱いで、1時間目に「高砂」の待謡をうたう活動、2時間目に、当地域において結婚式でうたわれた「高砂」の待謡と民謡「さんさしぐれ」の鑑賞活動をし、感じ取ったことを言葉や絵で表す活動や、児童がつくった詩を謡の節にのせてうたう活動を行った。

学習プログラムで工夫した点は、①導入で様々な種類の能面をみせ、児童と能面を見て感じたことを話し合うこと、②能楽師の安田氏の指導の下に、新聞やぶりやボディーワークの活動を取り入れ、児童の自然でのびのびとした声をひきだすこと、③保存会会員による実演で、結婚式のときにうたわれていた謡を鑑賞し、感じたことを言葉や絵で表し、伝え合う活動を行うこと、④児童がつくった「四季のうた」という詩を、謡の節にのせてうたう活動を取り入れることである。

### (2) 検証授業成果

(1)で作成した学習プログラムに基づいて、2013年2月に、宮城県大崎市立大貫小学校にて、新田ノ目春藤流保存会「鉢の木会」会員2名と協働し、小学校4年生を対象に「郷土の音楽に親しもう」という題材で、2時間の検証授業を行った。

#### ①児童の声の変容

教材曲である「高砂」の待謡の指導では、

能楽師の安田氏の指導の下、第1に、音の高低は気にせず、指導者の気合を感じて大きな声でうたい、覚えてから節の指導に入ること、第2に、うたう音の高さは、児童が一番気持ち良く出しやすい声にすることを心がけ、指導を行った。児童は、講師のうたを範唱しながら、始めは小さく低い声でうたっていた。しかし、謡の練習の間に、大きな声を出すために取り組んだ新聞やぶりやボディーワークを取り入れると、お腹から力づよい声を出すようになり、顕著に声の変容が見られた。

## ②感じたことを文章や絵で表し、伝え合う活動

当地域で、昭和30年代まで行われた、謡と民謡で織りなす結婚式の様子を伝えるため、当時の結婚式でうたわれた「高砂」と民謡「さんさしぐれ」を、保存会会員の実演で鑑賞し、鑑賞して感じ取ったことを、言葉や絵で表す活動を行った。

児童は、「高砂」と「さんさしぐれ」の曲を聴き比べることで、曲の感じやリズム、速さの違いに着目して感じ取ったことを表現したり、うたわれた場や人をイメージして絵であらわしたりした。この活動を通して、前時で自分達がうたったうたと地域に根付く生活や文化とのかかわりについて知り、曲の特徴を分析的にとらえることができるようになった。

## ③児童がつくった詩を、謡の節にのせてうたう活動

事前に、「4年生の謡をつくろう」という目標の下、児童があらかじめグループでつくった四季を表す言葉や文章をつなげて、「四季のうた」といううたを作った。

この「四季のうた」を、講師の範唱を聴きながら、謡の節にのせて声の大きさや節まわしに注意しながらうたったことで、児童は地域に根付く謡をより身近なものに感じ、謡の美しさを感じ取りながらうたうことができるようになった。

これまでの先行研究では、中央五流の謡の稽古の方法を学校教育にも取り上げることが多かったが、本研究の成果は、地域の伝承者・実演家・教師・子どもをつなぐことで、地域や学び手の実態に特化した学習プログラムを作り、授業を行った点にある。授業の様子は、『河北新報』において、地域の貴重な文化と子どもをつなぐ授業として紹介され、地域文化や学校文化の掘り起こしを行うことにもつながった。

### (3) 今後の課題

①この学習プログラムを継続的に学校教育に取り入れ、子どもの声の変容や、地域文化や人とのかかわりによる意識の変容を見て

いくこと。

②他の地域の小・中学校や、教員養成課程においても応用できる学習プログラムを作成し、検証授業を重ねて教育的効果を検証すること。

③このプログラムを応用し、生涯教育のモデルプランへの応用を試みること。

## 5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文] (計3件)

①田村にしき「箏曲を題材とした授業実践の力を育む—小学校教員養成課程の専門演習における実践を通して—」『日中音楽比較研究学術会議講演論文集』10号、査読無、2013

②田村にしき「小学校教員養成課程における伝統音楽の授業実践—外部講師との連携を通して—」『学校音楽教育研究』Vol.17、査読無、2012、294-295頁  
DOI: ISSN 1342-9043

③田村にしき「宮城県北部における謡の伝承の実態—一個の追求と学び合いによる「自己変容」の過程の分析から—」『音楽教育学』第42巻第2号、査読有、2012、1-13頁  
DOI: ISSN 0289-6907

[学会発表] (計3件)

①田村にしき「箏曲を題材とした授業実践の力を育む—小学校教員養成課程の専門演習における実践を通して—」第10回日中音楽比較研究学術会議(2013年03月28日)、東京藝術大学

②田村にしき「小学校教員養成課程における伝統音楽の授業実践—外部講師との連携を通して—」日本音楽教育実践学会大会(2012年08月18日)、鳴門教育大学

③田村にしき「謡の伝承に関する音楽教育学的研究—宮城県北部の調査に基づいて—」(社)東洋音楽学会東日本支部第57回定例研究会(2011年6月)、有明教育芸術短期大学

## 6. 研究組織

### (1) 研究代表者

田村にしき (TAMURA NISHIKI)  
東京福祉大学・教育学部・助教  
研究者番号: 50613494

### (2) 研究分担者

( )

研究者番号：

(3) 連携研究者  
( )

研究者番号：